

敬語の種類と一覧 (尊敬語・謙譲語・丁寧語の違い)

敬語とは？

「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」の違い

敬語とは

「相手に対する敬(うやま)う気持ちを表す言葉」のこと。

相手を敬うとは、どういうことだろう？

太郎君が買い物に行って、お客さんなのに普通の言葉が使われたらちょっとモヤっとするよね。それはお客さんとして大切に扱われていないと思うからだね。

ほかにも、先生や先輩に対して友達と話すような普通の言葉づかいを使ったら、失礼になってしまうよね。



だから相手が嫌な気持ちにならないように、丁寧な言葉を使ったり、普通とは違う特別な言い方をしたりするよね。

こうやって、相手に対して、「あなたを大切にしていますよ」という気持ちが伝わるようにとか、目上の人に対して失礼のないように敬意を表すために使う言葉をまとめて「敬語（けいご）」というんだ。

「敬う」ためのことばだから、「敬語」なんだね。

ちなみに、敬語が使われるのは「話し相手」に対してだけではなくて、「話題に出てくる人」や「話題に出てくる物」に対して使うこともあるよ。例えば、Aさんがある会社に電話をして、電話に出たCさんにBさんを呼んでもらうとき、「Bさんはいらっしゃいますか??」と言うよね。この「いらっしゃる」は、話している相手のCさんにではなくて、Bさんに対して使われている敬語だよ。

さて、「相手を敬う気持ちを表す」といっても、そのときの状況とか、気持ちの表し方にはいろいろあるよね。

「敬語」には3つの種類があるよ。

敬語の種類

1. 丁寧語（ていねいご）
2. 尊敬語（そんけいご）
3. 謙譲語（けんじょうご）

それぞれをくわしく解説するよ。



相手と自分が対等な関係のときに使う敬語 「丁寧語」

対等な関係とはどういうことだろうか？

さっきの例でいうと、お店で買い物をするときかな。

「お客さん」と「お店の人」は、どちらかがエラいとかではないよね。

つまり、「イコール」の関係。

他にも、初めて会ったばかりの人同士とか。

どちらかがエラいとか、上下の関係はないけれど、「相手を敬っている気持ち」を表すために使うのが「丁寧語」なんだ。

丁寧語は、その名のとおり「丁寧な言い方」をするというイメージ。

「タメロ」とか「ですます調」とか言わないかな？

タメロがつまり普通の言葉で、「ですます調」が丁寧語だね。

丁寧語・・・自分と相手は同じ立ち位置。どちらが上とかはない。

相手が自分よりも目上のときに使う敬語 「尊敬語」または「謙譲語」

丁寧語は対等な関係なのに対して、「相手が自分よりも目上な場合」に使う敬語が「尊敬語」と「謙譲語」なんだ。

例えば、会社の部下と上司とか。先生と生徒とか。孫とおじいちゃん・おばあちゃんとか。

相手を自分よりも「上」にするには、2つの方法があるよ。

ひとつは、「相手を自分より上に持ち上げる」。

もうひとつは、「自分が相手よりも下にさがる」。





方法はちがっても、結果的には「相手が上」になるんだね！
「相手を上に持ち上げる」敬語が、「尊敬語」
「自分が相手よりも下にさがる」敬語が、「謙譲語」だよ。

尊敬語・・・

相手が自分よりも目上の場合に使う。
直接相手を高めることで、相手を上にあつかう。

謙譲語・・・

相手が自分よりも目上の場合に使う。
自分のことをへりくだることで、相手を上にあつかう。

敬語の作り方と一覧

丁寧語・尊敬語・謙譲語の違いはわかったけど、普通の言葉をどんなふうに変えればいいの？
敬語の作り方には、それぞれ共通のやりかたと、それぞれオリジナルのやりかたがあるよ。



敬語の作り方のパターン

1. 丁寧語・尊敬語・謙譲語どれも共通のパターン
2. 丁寧語・尊敬語・謙譲語それぞれオリジナルのパターン

1. 丁寧語・尊敬語・謙譲語共通の作り方

その言葉に「接頭語（せつとうご）」をつける

言葉の頭に、決まった言葉をくっつけるやり方。
丁寧語・尊敬語・謙譲語それぞれ、もともとの言葉の頭に「決まった言葉」をくっつける方法だよ。

丁寧語を作るときの決まった言葉の例

「お」・「ご」

尊敬語を作るときの決まった言葉の例

「お」・「ご」・「御」・「貴」

謙譲語を作るときの決まった言葉の例

「粗」・「弊」・「愚」・「拙」・「小」



	尊敬語	謙譲語	丁寧語
茶	お茶 ×「おいしい茶でした」 ○「おいしいお茶でした」 相手の出してくれた茶に 良い言葉をつけて高めている よ。	粗茶 ×「茶をどうぞ」 ○「粗茶をどうぞ」 自分の出した茶に 良くない言葉をつけて下げている よ。	お茶 ×「茶を飲みますか？」 ○「お茶を飲みますか？」 茶に「お」をつけることで、丁寧な 言い方にしているよ。
飯			ご飯 ×「飯を食べますか？」 ○「ご飯をたべますか？」
社	御社・貴社 ×「あなたの会社」 ○「御社」	弊社 ×「うちの会社」 ○「弊社」	
両親	ご両親 ×「あなたの両親」 ○「ご両親」		
息子	ご子息 ×「あなたの息子」 ○「ご子息」	愚息(ぐそく) ×「うちの息子」 ○「愚息」	
家	お宅 ×「あなたの家」 ○「お宅」	拙宅(せったく) ×「自分の家」 ○「拙宅」	
自分		小生(しょうせい) ×「自分は」 ○「小生は」	

尊敬語を作るときの「決まった言葉」は、「御」とか「貴」という良い意味を持つ言葉だね。

それに比べて、謙譲語を作るときの「決まった言葉」は、「粗」とか「愚」とか「拙」なんかのあまり良くないイメージの言葉だね。

良い意味をもつ言葉をつけることで、「相手を持ち上げる」ことができるし、良くない言葉をつけることで、「自分を下げる」ことができるんだね。



敬語動詞（けいごどうし）を使う

敬語動詞とは、尊敬や謙譲、丁寧な意味をもつ特別な動詞のことだよ。
もともとの言葉に、他の言葉をくっつけるのではなくて、「もともとの言葉
じたいが特別な言葉に変身する」イメージだね。

普通の表現	尊敬語	謙譲語	丁寧語
いる	いらっしゃる	おります	おります
ある	あられる	ございます	ございます
なる			相なります
する	なさる	いたす	
言う	おっしゃる	申す・申し上げる	
知る		存じる	
思う		存じる	
話す	おっしゃる	申す・申し上げる	
見る	ご覧になる	拝見する	
着る	おめしになる		
もらう		いただく	
やる		さしあげる	
くれる	くださる		
受ける		うけたまわる	
食べる	めしあがる・あがる	いただく	
飲む	めしあがる・あがる	いただく	
聞く		うかがう・拝聴する・うけ たまわる	
行く	いらっしゃる	参る	
来る	いらっしゃる		
訪問する		うかがう	

これはもう、その特別な言葉をそれぞれ覚えるしかないね。



2. 丁寧語・尊敬語・謙譲語それぞれオリジナルの作り方

共通の作り方とはちがって、丁寧語・尊敬語・謙譲語それぞれオリジナルの作り方もあるんだ。

丁寧語オリジナルのパターン

言葉の終わりに、「ます」「です」をつける

「ます」「です」をつける例

「行く」に「ます」をつけて・・「行きます」

「今日は晴れ」に「です」をつけて・・「今日は晴れです」

よく言う「です」「ます」調のことだね。

尊敬語オリジナルのパターン

接尾語（せつびご）をつける（言葉のおしりに決まった言葉をつける）

「さま」「上」「さん」をつける例

AがBを呼ぶときに・・「Aさま」「Aさん」と呼ぶ。

お父さんを呼ぶときに・・「父上」と呼ぶ。

人の名前に「敬称（けいしょう）をつける」とかよく言うね。
なるほど、敬うためにつけるものだから「敬称」だったんだ。



「れる」「られる」をつける

「聞く」に「れる」をつけて・・「聞かれる」
 「乗る」に「られる」をつけて・・「乗られる」

特別な言葉で、もとの言葉を囲む

「お・・・になる」「お・・・なさる」
 「ご・・・になる」「ご・・・なさる」を使う

「読む」・・「お読みになる」
 「喜ぶ」・・「お喜びになる」
 「出席する」・・「ご出席なさる」
 「発言する」・・「ご発言なさる」

謙譲語オリジナルのパターン

特別な言葉で、もとの言葉を囲む

「お・・・する」「お・・・申す」
 「ご・・・する」「ご・・・申す」
 「読む」・・「お読みする」
 「頼む」・・「お頼み申しあげる」
 「報告」・・「ご報告する」
 「案内する」・・「ご案内申しあげる」

